

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol use and cigarette smoking as risk factors for post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis.</p> <p>内視鏡的逆行性膵胆管造影後膵炎の危険因子としてのアルコールおよび喫煙</p>	
執筆者	
Debenedet AT, Raghunathan TE, Wing JJ, Wamsteker EJ, DiMagno MJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Clin Gastroenterol Hepatol. 2009 Mar;7(3):353-8e4. Epub 2008 Dec 3.	
キーワード	
内視鏡的逆行性膵胆管造影後膵炎、危険因子、飲酒、喫煙、症例対照研究	
要 旨	
<p>目的・方法： アルコール摂取と喫煙とは様々な膵臓疾患との関連が知られている。しかし、これらの因子が内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP) 後膵炎 (PEP) と関連しているかについては明らかにされていない。我々は後ろ向きの症例対照研究を行い、アルコール摂取と喫煙が PEP のリスクを高めるか否かを検討した。</p> <p>結果： ミシガン大学・ヘルスシステム (University of Michigan Health System) において ERCP を施行された 7638 患者を同定し、除外基準を適用し 123 例の PEP を選出した。年齢・性で層化マッチングさせた対照を 308 例無作為抽出 (症例に対し 2.5 倍の対照抽出) した。除外基準適用後 248 例の対照群が解析対象として残った。盲検的に以下の情報を収集した；アルコール摂取、喫煙、5 つの調整変数 (オッジ括約筋不全[SOD]の疑い：SOD=Sphincter of Oddi dysfunction、膵臓括約筋切開術後、膵管カニューレション困難、膵管への注入 2 回以上、膵管へのステント挿入)。単変量においては現在飲酒 (P<.001)、過去飲酒 (P<.001)、過去喫煙 (P<.001)、SOD 疑い (P<.001)、膵臓括約筋切開術後 (P<.001)、膵管カニューレション困難 (P = .001)、膵管への注入 2 回以上(P = .007)において PEP の頻度が上昇していた。PEP の頻度は現在喫煙者で減少していた(P < .001)。多変量解析の結果、独立した有意な危険因子として以下のものがあつた：現在飲酒 (オッズ比[OR]4.70、95%信頼区間[95%CI] 2.60-8.50 ; P < .0001)、過去喫煙 (OR 3.29、95%CI 1.28-8.44 ; P < .013)、SOD 疑い (OR 3.69、95%CI 1.94-7.02 ; P < .001)、膵臓括約筋切開術後 (OR 5.91、95%CI 2.04-17.14 ; P = .001)。</p> <p>結論： PEP の新たな危険因子として現在飲酒が指摘され、過去喫煙も危険因子の可能性があつたことがわかつた。PEP 予防のための介入研究ではこれらの因子を考慮することが重要である。</p>	